



キッズカフェ

わたしたちの「菊間駅」を守りたい

JR菊間駅は、1925年(大正14年)に松山駅に先駆け開業し、90年近くの歴史を刻んでいます。かつては、多くの職員が駐在し、鉄道駅を中心に地域・産業が発展したことは言うまでもありません。戦後、モーターゼーションにより鉄道の利用頻度が下がり、近年では、高速道路料金施策など厳しい経営環境が続くJR四国は、駅業務体制の見直しを迫られています。内容は、平成22年10月より四国257駅の206駅を無人化に踏み切るといものでした。そんな中、菊間駅も完全無人化となる話が飛び込みました。その話をしてくれたのは、長年、菊間駅の駅業務にたずさわってきた井手さんと田村さん。菊間駅に一番愛着を感じていたお二人です。

地域に住む私たちにとって、駅は人の往来・交流による賑わいが絶えなかった多くの思い出の場所であり、歴史的価値の高い場所。今治・松山に通学する高校生たちにとっては、現在も大切な場所です。無人化になることにより、町全体の活気がなくなり、駅周辺の環境や治安の悪化を心配する話が多く聞かれました。そのような中、菊間駅の利活用を願う住民有志がつどい、「ふれあいステーションきくま開設を考える会」を設立しました。私た

ちは、ただ駅を守りたい、この町を良くしたいという思いでの交渉でしたが、JR側の意図とも合致する部分が多かったのか、任意団体としては、愛媛県では初めてとなる無人駅の無償貸借契約を結ぶことができました。

きれいな駅が人の交わりをつくる

「ふれあいステーションきくま」の基本は、駅をきれいに守っていくことです。駅を利用されるみなさんのご協力はもちろん、駅を借りた当初から女性ボランティアのみなさんの努力もあつて、駅舎内だけでなく、トイレ、ホームの清掃と景観維持につながっています。

特集① 駅舎の空きスペースの活用

無人駅から地域再生につながるまちづくりプロジェクト



ふれあいステーションきくま ボランティア駅長 羽藤 謙司 (今治市)

また、ボランティアのみなさんによる駅周辺の塗装や大工さん有志による県産材を活用したリフォームで、より一層美しい駅になりました。



節分

ふれあいステーションきくまの活動の柱は、駅舎を住民の交流拠点として、多くの方々にご利用いただくことです。毎週水曜日には、地域のボランティアが中心に、地域交流サロンを開催しています。サロンは、誰でも気軽に、自由に参加できる地域の憩いの場です。松山市北条地区にある「おもてなしサロン明星」の運営方法などを視察するなど、地元の社会福祉協議会の協力も得ながら、進めてきました。

サロン開設当初から、婦人会や商工会女性部、手話サークル、医療生協などが交代でサロンを運営。おしゃべりをしたり、手芸をしたり、駅周辺の高齢者の方だけでなく、同じ菊間町にある亀岡駅からも電車で1駅ということもあり、亀岡地区からも、多くの方に来ていただいています。

その他、駅舎は囲碁や女子会、同窓会などの地域住民の方々のいろいろな会合としても利用していただいています。また、児童館と協働した取り組みとして、子どもたちによるキッズカフェや地域文化資産を活かした子どもと大人が楽しみながら交流するイベントなども企画、菊間中学校の総合的な学習

の場としても利用されています。

恒例になった節分行事

菊間町には、厄除けで知られる寺院「遍照院」があり、節分の厄除け大祭の際には、地元特産の鬼瓦をのせた神輿を、厄年をむかえる男性たちが担ぎ、町内を巡ります。3年前から、保育所や幼稚園の園児を招き、駅前で節分行事を開催。上下線のローカル列車が同時に停車する時間にあわせ、神輿を担いできた厄年の男たちを鬼役に園児総勢200人が豆に見立て丸めた新聞紙を投げます。その光景に、お参りに来た乗客の人たちや保護者たちがこぞとばかりに、一斉にカメラのシャッターをきります。今年も、今治のご当地ゆるキャラ、バリイさんもかけつけてくれ、大賑わいとなりました。



地域交流サロン「ふれあい喫茶」

「ふれあいスタジオ」は、今治市の町おこしを行っていく地域活性化推進事業として予算がつき、音響機器などの放送機材と環境を整備。同年3月から、毎月曜日11時15分から、1回15分間の「菊間、駅からトーク」という番組形で生放送をお送りしています。パーソナリティは地元菊間町のメンバー「菊間オールスターズ」。毎週、楽しく菊間の魅力満載の情報を発信しています。今治市の広報誌「広報いまばり」でも表紙に取り上げられ、注目をあびました。放送は、今治市内のほとんどの地域で、FM78.9MHzで聴くことができます。

多彩なコラボレーションと秘策がいつ
ぱいの「駅市」

昨年11月、菊間駅前広場、周辺の商店街がアンティークな街並みに様変わり。商店街の空き店舗、空き地に古道具・骨董などの30の店が並び、ふだん人気のない町が賑わいのある商店街に蘇りました。

この催しは、「駅市」と題し、不定期の日曜日に、菊間駅前の広場スペースを活用してフリーマーケットを中心とした市を開催しています。これまで6回の駅市を開催しました。毎回、賑わいをつくるために、多彩なコラボレーションや秘策を講じています。予算なしで、これだけのことができるのか！と驚かされることだと思えます。

次の開催も、「ふれあいステーション」

ま」のブログで、お知らせしますので、ぜひ遊びにきてください。きっとあなたのほしいものが見つかります！

地域の誇りと新たな可能性を！

ふれあいステーションきくま開設を考える会を発足し、3年が経過しようとしています。駅を借受けることができたなら、と当時から夢を抱く中、予想以上のスピードで、形を築いてきました。活動も軌道に乗ってくる中、えひめ地域政策研究センターのアシスト事業（助成金）を活用し、初の機関紙「きくま 駅から新聞」を発行。ふれあいステーションきくま開設までの軌跡と、開設からの取り組みを掲載し、これまで運営にご支援、ご協力をいただいた方々に対する、活動の報告にもなりました。

わたしたち菊間町の住人にとって菊間駅はかけがえない場所。世代や領域を越えた人と地域のつながりを生み、新たな出会いと育ちを地域にもたらしています。

ひとつひとつの歩みが地域の誇りであり、今後も若い人たちに受け継がれ、新しい地域を創造していく可能性を秘めています。

NHK連続テレビ小説『あまちゃん』の舞台、北三陸駅のようにアイディア満載の企画を立て、ふれあいステーションに関わる人たちの「活動の楽しさ」や「生きる喜び」につながるよう、これからもチャレンジしていきたいです。



ふれあいスタジオでの収録